

令和5年度全国学力学習状況調査の結果 京都市立松原中学校

4月18日、19日に、本校3年生を対象に実施された「全国学力調査」についての結果分析を御報告します。本調査は国語・数学・英語の3教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査も実施されておりますので、生活習慣と学力との関係など、本校の子どもたちの状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・英語）

【国語】【数学】【英語】の学力調査を実施しました。3教科ともに京都府平均正答率及び、全国平均正答率を上回る結果でした。今年度の調査より、すべての教科において知識・活用を一体的に問う問題形式となりました。英語では、初めて「話すこと」の力が問われる調査がコンピュータールームなどで個別のヘッドセットマイクを使って行われました。

国語科より



平均正答率は、京都府、全国ともに上回っている。15問全問正解と、1問だけ誤答の生徒で全体の24%を占めている。内容では、知識・技能（漢字、文法、古語の仮名遣い、語彙など、また、その扱い方）の部分では、どの問い合わせても全国、京都府共に上回っている。全体を通して無答率は、全国、京都府よりも下回っている。今までの学習の中で学んだ内容を活用したり、使ったりということを積極的に行っていると考えられる。

しかし、「文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかを見る」という問い合わせにおいて、無答率が全国平均より3.3%も高く7.2%あった。読書への意識と関連があると考える。根拠を明確にして書いたり、考えたりする問い合わせ、自分の考えを書く問い合わせにおいても同様に無答率が高く、正答率も全国平均より4%低かった。

今後は授業のなかでクリティカルシンキング（批判的思考）を意識した読み方を取り入れていきたい。また新聞記事の比較読み、翻訳作品の比べ読みなどを使い、そこで考えたことをインプットし、取り入れた情報に自分の考えを入れてアウトプットする学びが有効だと考える。

数学科より



数学は全体的に、京都府・全国の平均正答率を上回っている。領域ごとに見ても、京都府・全国より平均正答率を上回っていた。しかし、「数と式」分野、「図形」分野が、他の分野と比較して数値が少し高いぐらいであった。問題ごとに見ると、「自然数の意味を理解しているか」問う問題が、唯一京都府・全国より平均正答率を下回っていた。また、中学校1年生で学習した内容が定着しておらず、不正解だった生徒が多くみられた。

観点別に見ると、「思考・判断・表現」の問題よりも、「知識・理解」を問う問題の正答率が京都府・全国の平均正答率よりも少し高いぐらいであった。これらのことから、過去に学習した内容を復習する機会を授業内で作ったり、家庭での学習習慣をつけて自ら振り返るための手立てをとったりする必要がある。発展的な問題や記述式の問題は、京都府・全国の平均正答率を大幅に上回っていたので、今後も授業内でそのような取組を継続していきたい。

英語科より

英語は、すべての領域で京都府・全国の平均正答率を上回っている。しかし、問題形式の中で、記述式の問題に課題があると思われる。学習領域では、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の三領域において京都府・全国の平均正答率を上回っており、特に「聞くこと」領域が上回った。授業ではスピーチング中心の授業を行っており、自己表現を英語ができるようになってきたことから、聞くことの正答率が高いと考えられる。(アウトプット→インプット)しかし、記述式に課題があるということから、授業の中では自己表現を自由に話すことはできるが、「正しく話す」という細かいところまで行き届いていないことがうかがえる。生徒は話すことに対して比較的慣れてきたので、今回の結果から、書くことに時間を取り、自分や他人の文章を読み、推敲することで正しく書く力を高めようと考えている。

生徒質問紙調査から



【生徒質問紙で[肯定回答]が全国平均より高かったもの】

- 朝食を毎日食べていますか
- 今住んでいる地域の行事に参加していますか
- 学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間読書しますか
- 学校に行くのは楽しいと思いますか

【生徒質問紙で[肯定回答]が全国平均よりやや低かったもの】

- 学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間読書しますか
- 将来の夢や目標を持っていますか
- 家で自分で計画を立てて勉強していますか

本校は学校教育目標である「自ら考え行動し、仲間と協働できる、未来を切り開く生徒」の育成を目指していますが「家で自分で計画を立てて勉強していますか」という質問の「肯定回答」が低かったことを受けて改善していく部分があると考えています。また、「朝食を毎日食べていますか」や「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問の「肯定回答」が高く、地域や家庭で子どもを大切に育てていただいていることがわかります。最後に、どちらにも「学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間読書しますか」がありますが、端的に言えば、二極化が見られます。読書がなかなかできない生徒に関しては「国語科より」のところにもありますが今後の課題といえると思います。本校でも朝読書を行っております。自分の読みたい本と出会えるような声かけをしていきたいと思います。最近では新聞をとておられるご家庭も減り、テレビやスマートフォン等からほとんどの情報を得ているようです。「読書」にもっと関心を持ってもらえるよう本校でも働きかけを行っていきたいと思います

保護者のみなさまへ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性を更に伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を競うものでもありません。今回の結果から、正答率が全国、京都府の平均を上回っていることもありますが、生徒質問紙における肯定的な回答が多かったことも特徴的なことでした。これはご家庭での子どもに対する積極的な関わりやご指導・ご支援の成果だと感じています。今後とも子ども達の健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力いただきますようお願いいたします。

また、京都市の調査結果が京都市教育委員会のホームページに掲載されています。もしよかったらご覧ください。